

広島県の優良工務店が建てる

優しい木の住まい

GOOD HOME MAKING GIFTS A HAPPY TIME WITH MY FAMILY AND A FULFILLING LIFE VOL.24

一般社団法人広島県工務店協会 発行

木の家 注文住宅& リノベーション

36邸



厳しい自然から家を守り抜く
強く美しい石州瓦の魅力

約300年前から家具作りが続く町に
思い出に寄り添う家具がある

広島県の優良工務店が建てる

優しい木の住まい VOL.24

2 厳しい自然から家を守り抜く
強く美しい石州瓦の魅力

10 約300年前から家具作りが続く町に
思い出に寄り添う家具がある

18 住宅診断「安心じゃ検 ひろしまR住宅」
+中古住宅購入リノベーションサポート

22 快適な住まいで健やかな毎日を叶える
こだわりの設備機器

26 HKK REPORT
広島県工務店協会活動報告3

28 広島県工務店協会
家づくりの相談は会員工務店へ

30 地域の優良工務店がつくる住宅

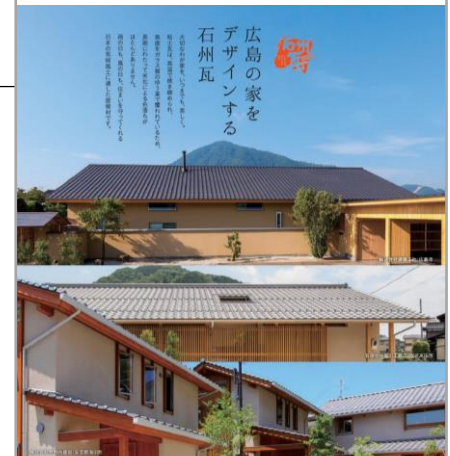
〔注文住宅〕
株式会社大喜/IKEHOUSE/永本建設株式会社/
HAND-WORK HOUSE株式会社田村建設/株式会社建築工社/しおた工務店/
佐々木順建設株式会社/橋本建設株式会社/旭ホームズ株式会社/
株式会社井上工務店/

〔リノベーション〕
豊北木材工業株式会社/株式会社ハイランド・ハウス

74 木の家24

82 個人事業主・一人親方の方へお知らせ
建設国保のご案内

裏表紙



石州瓦工業協会のロゴと連絡先情報

優しい木の住まい VOL.24

定価: 本体350円 + 税



発行: 2022年10月15日発行 | 印刷: 2022年10月15日 | 発行所: 一般社団法人広島県工務店協会 | 印刷所: 株式会社印刷工房 | 発行部数: 1,000部 | 発行所住所: 〒730-0855 広島県広島市東区南町1-1-1 | 印刷所住所: 〒730-0855 広島県広島市東区南町1-1-1



家を守る 赤瓦

厳しい自然から家を守り抜く 強く美しい石州瓦の魅力

島根県大田市・江津市・浜田市を中心とする石見地方で生まれた、独特の赤が印象的な石州瓦。

職人の知恵と技で継承されてきた石州瓦は美しさと性能の高さを併せ持ち、
今や屋根材としてだけでなく、壁や床にまで用途は広がり続けている。

凍害や塩害に強い石州瓦 海外輸出も積極的に展開

現在、国内における瓦の三大産地は、三州（愛知県三河地方）、石州（島根県石見地方）、淡路（兵庫県淡路島）。それぞれ原料上や最適な焼成温度が異なり、中でも高温で焼き締める石州瓦は、他の産地の瓦よりも焼き締まって硬く、積雪や凍害、塩害に強いのが特長。

石州瓦は1619（元和5）年、浜田城築城のため、大阪から招いた瓦師によつて造られたこと始まる。その後、幕末から明治時代の初めにかけて、石見地方は丸物と呼ばれる日常使いの陶器がさかんに造られるようになり、その技術を瓦づくりに応用。1200℃もの高温で焼成された瓦が石州瓦の原形となった。現在は6社の窯元メーカーによつて年間約3000万枚が生産され、多様化する消費者ニーズにも幅広く対応。伝統的な和瓦だけでなく、S形瓦やモダンなデザイン住宅向けの平板瓦も生産できるようになった。屋根材としての範疇を超え、床材となる敷瓦や壁材となる壁瓦、あるいは瓦食器など、多様な転用も進んでいる。

2007（平成19）年にはブランド力向上のため、地域団体商標を取得し、石州瓦の国際見本市への出展や海外輸出を積極的に進め、海外市場での新たな需要の創出も目指している。



ショッピングセンターゾーン

石州瓦の代表的な色である赤特色と、ショッピングセンター公園の鮮やかなコントラストが印象的。石州瓦の伝統的なイメージにとらわれることなく、近代的な景観が創出されているのも特徴だ



日常の中で赤瓦を身近に感じる 石州瓦に彩られた街並み



江津ひと・まちプラザ パレットごうつ

パレットごうつの大屋根は1800㎡にも及び、特注色による約4万6000枚の石州瓦で葺き上げられている。壁面には瓦ルーバーが採用され、壁材としての石州瓦の新たな可能性を感じさせてくれる



石州瓦を活かして実現した地域性豊かな景観づくり

石州瓦の地域団体商標が登録される2年前の2009(平成17)年、島根県立石見美術館と島根県立いわみ芸術劇場の複合施設である「島根芸術文化センター グラントウ」が開館。この建物の屋根には約12万枚もの石州瓦が使われ、さらには外壁にも壁瓦として16万枚の石州壁瓦を採用。壁材としても注目が集まることになった。

江津市では2011(平成23)年度に「ショッピングセンターゾーン整備基本計画」が策定され、都市機能の充実と市民生活の利便性向上を目指し、市内中心部に総合病院や保育園、都市公園、公営住宅などを一体的に整備。すべての建築物に石州瓦を使い、外壁の色彩やサイン、照明などに統一感を持たせて地域性豊かな景観を形成した。

また、江津駅前には市民交流の複合施設「江津ひと・まちプラザパレットごうつ」が建設され、ここで屋根や壁、床などに石州瓦を多く採用している。石州瓦の赤は海の青や山の緑に美しく映え、かねてから独特の景観をつくり出してきた。市民と事業者、行政が協働し、石州瓦の景観を活かしたまちづくりを積極的に推進。そこには、この地に長く継承されてきた伝統の技がしっかりと息づいている。



1937(昭和12)年に建てられた花田医院をはじめ、カーキ色の石州瓦が葺かれている建物もわずかながら残っている。いま見れば瓦の色ムラも味わいがあるが、当時は色を均一に仕上げることが良しとされていた

石州瓦の 江津

豪商の繁栄ぶりを今に伝える 赤瓦が連なる江津の街並み



江戸時代から昭和初期にかけての歴史的建造物が今も多く残り、当時の面影を色濃く残す江津本町。かつての天領地らしい風格が街並みに漂っていて、家によって色合いが微妙に異なる石州瓦の妙味も一興だ



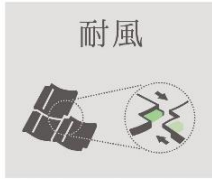
年月を経てもなお美しく、石州瓦が彩る歴史的建造物

石州瓦の産地は島根県の西部地域、大田市・江津市・浜田市。今回訪れた江津の町は、中国地方唯一の大河・江の川の舟運と北前船が交わり、山陰道とも交差する要衝で、多くの物資が集積する商港の町として大いに繁栄。都野津層という耐火度の高い陶土にも恵まれ、江戸時代以降焼き物づくりが盛んになった。(二社)高根県建築士会江津支部会員 梅田賢千氏のガイドで、今も残る、かつて廻船業などで財を成した家の建物や、町内を貫く旧山陰道沿いに建ち並ぶ藤田家や花田医院、和菓子近本大正堂などが今も残る。趣のある石州瓦の美しい景観を見ることができた。このような歴史的建造物が多く残り、町の区画も当時とあまり変わらない江津本町では、「天領江津本町覚街道」としてこれらの歴史資源を活かしたまちづくり活動が行われている。

この旧山陰道を西へ進むと土坂があり、この頂上から石見銀山天領地と浜田藩の境界で、さらに進んで山を越えると、良質の陶土に恵まれた都野津がある。ここは石州瓦の故郷であり、昭和30年代までは石州瓦を焼成する巨大な登り窯の姿もあったという。石州瓦が織りなす赤い景観は当時の風情を今に伝えてくれている。

独自の製法による高い機能性

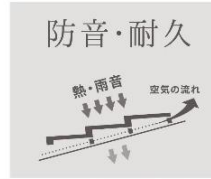
石州瓦の一番の特徴は耐久性。雨や積雪、日射、風、潮風など、過酷な気候条件下でも耐用年数は50～60年と長く、劣化することなく家と家族を守ってくれる。この高い機能性は、古来より都野津層に育まれた耐火度の高い陶土を原材料にしていること、1200℃以上という焼成温度の高さによるもの。



耐風
互いにかかりかみ合う組み合わせ構造のため、山陰特有の強風が吹きつけても、瓦のめくれやスレを最小限にとどめる



耐震
重い石州瓦を載せた屋根が大地に向けて建物を押しつけるため、駆体さえしっかりしていれば地震の揺れにも強さを発揮



防音・耐久
風や地震に強く、断熱、防露、遮音などの二次的性能にも優れている石州瓦は、住まいの快適性や省エネにも貢献してくれる

メンテナンスフリー

一般的に、金属製や化粧スレートなどの屋根は10年おきに塗り替えが必要であるのに対し、石州瓦はほとんどメンテナンスが不要。経年による劣化や色あせなどがほとんどないため、塗り直しや葺き替えの必要もなく、30年以上の長期的な視野でコストを考えれば実に経済的な屋根といえる。

屋根材の耐用年数		屋根材のメンテナンス費用			
カラー鉄板 (瓦葺き)	15年	新築時	10年後	20年後	20年間に 必要な経費
ガルバリウム 鋼板葺き	30年	金属屋根 屋根材 350,000円	塗装・足場代 480,000円	塗装・足場代 480,000円	1,310,000円
カラーベスト葺き (薄型スレート)	30年	粘土瓦 (J形) 屋根材 650,000円	メンテナンス費 0円	メンテナンス費 0円	800,000円
粘土瓦葺き 60年		壁量躯体追加工事 150,000円			その差 510,000円

※CASBEE (建築物環境性能評価) HPより
※全額・年数はあくまで目安です。— 一般社団法人全日本瓦工事業連合会による
※全国屋根瓦工事業組合連合会
「瓦葺・金属屋根のランニングコスト比較資料」に基づき、石州瓦工事業組合が試算したものです。
※形動美瓦使用。屋根面積100㎡の場合

さまざまな用途と活用

石州瓦は屋根瓦にとどまらず、ルーバーや壁材、床に敷くタイル、意匠性をもたせたデザインの外構など、あらゆる場所で多彩な用途が見られる。古来からの和風に加えて南欧風やモダンなテイストの家など、雰囲気も多様化しつつある。



瓦ルーバー 駐車場壁タイル 床タイル カウンター腰壁 外構化粧



石州瓦が採用された熊本県の応急仮設住宅
画像提供/株式会社エアーフィールド

この耐久性に加え、遮音性に注目したのが2020年7月に豪雨被害を受けた熊本県の応急仮設住宅。主流である金属屋根だと工期は短く済むが、雨音が被災者に不安やストレスを与えることを危惧し、遮音性に優れた石州瓦を採用することに。島根大学の石州瓦を使った試験研究によれば、瓦屋根は金属屋根に比べて雨音を約3割抑制できることがすでに実証されている。

近年では、製造工程で出る規格外の石州瓦を再資源化(リサイクル)する取り組みも始まった。従来は廃棄処分に多額のコストがかかっていたが、瓦を粉碎・ふるい分けして商品化。ヒートアイランド現象抑制のためアスファルト代わりに舗装に使ったり、学校のグラウンドの砂の下に敷いて水はけをよくしたり、一般家庭でも駐車場や庭の敷砂に使われるようになってきた。石州瓦の可能性は今後さらに広がっていくことだろう。

石州瓦の製造工程



原土処理

原土探掘場で掘り出された良質の粘土を数カ月間熟成させ、数種類を配合。熟成をしないとねじれが生じる



原土投入、土練

原土を真空ドレン(土練)機に投入し、空気を抜いて適当な柔らかさに調整。空気を抜くことで瓦の割れを防ぐ



プレス成形

谷や棧山の形はもちろん、釘穴やJISマークも含めて瓦の形に成形した後、乾燥炉へと送られる



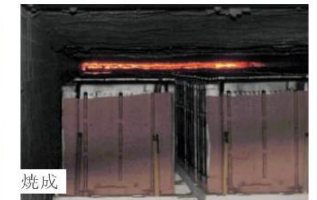
施釉

釉薬を施す施釉。銀黒や赤系など釉薬によって独特の色瓦ができる。1枚ずつハンガーで運ばれ、その後焼成



施釉(手作業)

少量品の場合は、今でも釉薬を施す施釉を昔ながらの手作業で行っている



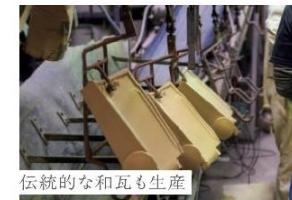
焼成

1200℃以上の高温焼成により、石州瓦の特徴である耐久性が生まれ、色褪せや色むらも起こりにくい性質を持つ



検査

完成品は機械と人の目でチェック。センサーによるひずみ検査と人間による目視検査を行い、高い製品精度を維持



伝統的な和瓦も生産

現代的な平板瓦だけでなく、このような伝統的な形状の和瓦も生産し続けている



特殊のものにも対応

神社仏閣で使われるものや特殊な形の特注品なども受注。量産する製品とは異なり、職人の手で作り上げられる

品質も量も安定した生産を維持 規格外の瓦も付加価値で製品化

魅力

石州瓦の

仮設住宅や規格外の再利用石州瓦の用途は今後も拡大
 石州瓦は、大まかに「原土処理」「プレス成形」「乾燥」「施釉」「焼成」「検査」という工程を経て生産される。昔はすべての作業を人力で行っていたが、現在は近代的な工場内の生産プラントで造り出されている。かつては職人の経験と勘に頼っていた焼成温度はコンピュータで管理され、安定した品質の製品を量産できるようになった。

高温で焼き締められているため、日本海側特有の冬の積雪や塩害に加え、酸性雨にさらされても100年以上耐える力をもつ石州瓦。今は釘で固定されているため、山陰地方における台風の際の基準風速34mでも飛ばされず、震度6レベルの地震でも耐えられる上、マイナス20℃でもひび割れにくい。その耐久性試験の結果でも証明済みだ。そのため、山陰地方以外の雪深い地域でも石州瓦は古くから使われ、家とそこに暮らす人を守っている。伝統的な和瓦だけでなく、平板瓦や洋瓦などの展開も多く行われているため、和風建築から洋風建築まで多彩なニーズに対応できるのも大きな魅力。さらに、メンテナンスフリーという長所も、約200年前に建てられた寺社の屋根に見られる石州瓦が今も色あせることなく当時のままあり続けていることが何よりの証左だ。

その時代に即しながらも
タイムレスな
普遍性を保つ佇まい



施工/橋本建設株式会社



施工/豊北木材工業株式会社



施工/橋本建設株式会社



施工/永本建設株式会社



施工/永本建設株式会社

広島に風土に適応し
美しい景観を創造する

裏面協賛広告



施工/しおた工務店

石州瓦の特性は、
エリアによってさまざまな気候を見せる広島の風土に適している。
そして、機能的でありながらも意匠性を併せ持つ存在感で、
美しい景色をつくり出してくれる。

石州瓦の
意匠

取材協力/石州瓦工業組合



〒695-0016 島根県江津市嘉久志町イ405 TEL 0855-52-5605 FAX 0855-52-0766
<https://www.sekisyu-kawara.jp/> 屋根の学校 検索





丸窓の2階建ての工場内では、オートメーション化された大がかりな設備で石州瓦が生産されていく。ここ第1工場では主に和瓦と平板瓦を生産している、熱を効率良く活用するため、1階に焼成炉、2階に乾燥炉を配置している



今回の研修会には塩田会長をはじめ9名が参加。それぞれが、石州瓦についての新たな発見もあったようだ



石州瓦メーカーである株式会社ンバオの担当者から商品説明を受ける株式会社大喜の柿田社長



石州瓦に精通する梅田賢千氏の説明を受けながら、江津本町の街並みを眺める

石見地方でつくられる「石州瓦」 その故郷である江津を訪ねて 歴史を学び、魅力に触れた研修会

積雪や凍害などに強く高耐久という機能性の高さから、広島でも寒冷地などで多く採用されている石州瓦。その発祥の地であり、生産メーカーが集まる江津市で、このたび広島県工務店協会は研修会を実施した。

訪れたのは、石州瓦業界最大の生産量と販売規模を誇るメーカー、株式会社丸窓。掘り出された粘土を熟成させることから工場内で行い、プレス成形して乾燥させ、釉薬をかけて焼成し、検査に至る一連の流れを見学。その後昼食を挟み、石州瓦工業組合の組合員と情報交換を行った。廃瓦を再利用する丸窓をはじめ、軽量防災瓦で特許を取得した株式会社ンバオ、無釉薬での製品もつくる株式会社木村窯業所、来待石のみの釉薬と1300℃の焼成温度が特徴の亀谷窯業有限会社が同席。質疑応答では、石州瓦も耐火構造認定番号を取得すればさらに普及するのではなかいかという意見も出された。

最後に、石州瓦を屋根に書いたかつての商家が建ち並ぶ歴史ある江津本町と、病院や公営住宅などに石州瓦を使って特色ある街づくりが行われている「江津シビックセンターゾーン」や「江津ひとまちプラザパレットコート」を見学。参加者は、昔も今も石州瓦が江津市民の暮らしに溶け込んでいることを実感しているようだった。

経年変化を楽しめる石州瓦の魅力 今に伝えてくれる江津の街並みが印象的

IKEHOUSE 代表取締役 池田 芳史



近年、建築部材には化学加工された製品が多く使われていますが、なるべく素材そのものを「生かして」「楽しむ」部材は残していきたい。瓦はその中の1つで、工程を改めて見てみると職人の技が必要な部材だと感じました。

石州瓦の街並みが今も色褪せない風景であり続けるのは、瓦が経年変化を楽しめる素材であることも要因かなと思いました。

人の手による仕事も欠かせない石州瓦 伝統のモノづくりを守っていく大切さを実感

株式会社田村建設 代表取締役 田村 篤



当社でも寒冷地では石州瓦を採用していますが、つくられていくのを見たのは初めて。オートメーション化はされていますがやはり人の手による仕事もあるのだなと思いました。そして各社さんそれぞれに特徴があることもよく分かりました。

工場には想像以上に大がかりな設備が入っていただけに、1度なくなると再建するのは困難。伝統を守っていくことは大切ですね。

カメラ講習で撮り方・見せ方を学び これからの時代に必要な 自社の魅力発信に意欲を見せる

家づくりを検討中の方は、気になる会社のホームページやSNSを確認する時代。この度、広島県工務店協会では、そんなお客様に自社の魅力を自ら発信し続けていくよう、カメラ講習会を行った。参加者からは「これからは益々、自社で写真を撮っていくことが必要になってくると思います。今日は、見栄え、がする写真の撮り方や、照明の使い方、どんな機材が必要なのかまで詳しく教えてもらえ、自分たちでもできるといことが分かって良かったです」との声が聞かれ、より一層自社の魅力をホームページやSNSで発信していきたいと意気込んでいた。



ドローンを使った撮影方法や法律も学び、動画にも意欲を見せる



午前中は座学からはじまり午後は実践。ライティングも学んだ



講習会以降、各社さまざまな情報を自社で発信！
気になる会社があれば
下記からアクセスしてみよう！

工務店のホームページ、 SNSをのぞいてみよう！



しおた工務店



佐々木順建設
株式会社



IKEHOUSE



旭ホームズ
株式会社



マスグランビル
株式会社



橋本建設
株式会社



永本建設
株式会社



高橋工務店
株式会社



株式会社
大喜